

1 李徴の人間の時のひととなり

「博学才穎」「若くして名を虎榜に連ね」

若い時から優秀（上にいた）ヒエラルキー最上部
何でも思い通り

「江南尉に補せられた」

→「江南尉」……田舎役人＝下にいることが耐えられない

「自ら恃むところすこぶる厚く」

「賤吏に甘んずるを潔しとしなかった」

「下吏となって長く膝を俗悪な大官の前に屈するよりは」

→プライドが高い 自分は上にいる人間

「詩家としての名を死後百年に遺そうとした」

名を遺すために詩家になりたい

→詩を書くことは芸術のためではなく、有名になるため。

→ヒエラルキーの上部にいたい

「文名は容易に揚がらず、生活は日を追うて苦しくなる。」

→下の階層にいられない

「李徴はようやく焦燥にかられてきた。」

→このまま下層にいられない

「節を屈して、再び東へ赴き、一地方官吏の職を奉ずることになった」

→ヒエラルキー上層部にあがることをやめ、生きるために働く。

「己の詩業にになかば絶望」

→いい詩が書けないということではなく、詩が他人に認められない。

→下層にいられない

「彼が昔、鈍物として齒牙にもかけなかったその連中の下命を拝さねばならぬ」

→下層の人間の下につかなければならない。

→プライドが傷つく

→自分が自分であること・アイデンティティの崩壊→「狂悖の性」